岐阜新聞　平成２６年５月１３日掲載

大学はいま　研究室から

岐阜大大学院医学系研究科精神病理学分野　深尾　琢助教

「性同一性障害」をサポート

ヒトは一部の例外を除き、男か女の特徴を持って生まれます。男と女では、生殖器や脂肪の付き方といった体の特徴だけでなく、興味や関心の対象など生まれつき心にも違いがあります。もちろん遺伝子も違うのですが、それを検査で調べるまでもなく、生まれた子の男女を体で区別するやあや取りには興味がと、それに見合った心の特徴を示し始めます。

ところで、体で分けられた性別に心が激しく異を唱えること、これが性同一性障害の苦しみです。例えば女性は、体の性が心と反対方向に発達していかないように、ホルモンに影響を与えるＧｎＲＨａ（ジー・エヌ・アール・エッチ・エー）という薬が使われ始めています。当院でも男性の体で女性の心を持つ小学生が、この薬を使う準備を進めています。

岐阜大病院では、精神神経科が窓口となって性同一性障害の人へのサポートに当たっています。こうした取り組みは全国でも限られているため、他県からの受診が7割を占めます。性同一性障害が現れる理由は分かっていませんから、私たちの研究室では脳のＭＲＩを用いた調査も進めています。

ます。２００１～02年に放映された『金八先生』では、上戸彩さんが女性の体で男性の心を持った中学生を演じ、この問題が広く知られるきっかけとなりました。

最近では、体の性が心と反対方向に発達していかないように、ホルモンに影響を与えるＧｎＲＨａ（ジー・エヌ・アール・エッチ・エー）という薬が使われ始めています。当院でも男性の体で女性の心を持つ小学生が、この薬を使う準備を進めています。